

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【東岩槻小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	次年度に向けて (3月)
思考・判断・表現	年度末評価 (2月)

①	今年度の課題と学力向上策
学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能 ＜学習上の課題＞ 【国語】該当学年までに身に付けるべき漢字や言語に関する知識が定着不足であること 【算数】数の概念や基礎的な計算方法についての理解・技能が定着不足であること ＜指導上の課題＞ 基礎的・基本的な知識・技能を習得するための反復練習の時間を確保できていないこと	⇒【国語】個人での読書、本の読み聞かせ、調べ学習等、委員会活動や学校図書館と関連させ、児童が活字を読む機会を増やす。【随時】 ⇒【算数】折り紙などの実物を使ったり、毎回の授業始めで確認したりするなど、実物に触れたり繰り返し確認したりする機会を増やす。【随時】
思考・判断・表現 ＜学習上の課題＞ 【国語】考える力や、思ったり想像したりする力が定着不足であること 【算数】具体物、図、目的にあった表現方法を用いて算数的事象を考察することが苦手であること ＜指導上の課題＞ 思考を深める発問や、ヒントとなる手立てが不足していること	⇒【国語】日常的に説明的文章や短文などを読み、内容を相手に伝えたり、自分の思いや考えを持ったりできるようにする。【随時】 ⇒【算数】文字を図で置き換える、図から願意を理解する、図や表から立式する、式に合った問題作りをするなどの活動を授業の中に取り入れる。【随時】

⑤	評価(※)	学力向上策の実施状況
知識・技能	①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等	調査結果
思考・判断・表現	結果提供(2月)	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	【国語】情報の扱い方に関する事項の正答率が高く、情報同士の関係付けの仕方、図などによる表し方について理解できていると考えられる。一方で「言葉の特徴や使い方に関する事項」の正答率が低く、文脈に応じた漢字の書き取りに課題が見られる。 【算数】「データの活用」領域の正答率が高く、棒グラフの読み取り方について理解できていると考えられる。一方で「数と計算」「図形」領域の正答率が低く、単位分数の幾分として捉える見方・考え方や、平面図形作図の手順、意味や性質についての理解度に課題が見られる。
思考・判断・表現	【国語】話すこと・聞くことの高正答率が高く、意図に応じて話の内容を捉えることができていると考えられる。一方で「読むこと」の正答率が低く、複数の資料を読み、文章全体の構成を捉えた要旨を把握したり、図や表などと結び付けながら必要な情報を見付けることに課題が見られる。 【算数】「変化と関係」領域の正答率が高く、伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすことができていると考えられる。一方で、「変化と関係」領域以外の四領域全体を通して正答率が低く、特に「データの活用」領域で、目的に応じて適切なグラフを選択して数値の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述することに課題が見られる。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

③	中間期報告	中間期見直し
評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能 B	【国語】辞書を机の脇に掛け、各々自分のタイミングで意味調べができるようにした。また、委員会活動と関連させながら、学校図書館の活用を促すことができた。個人での読書習慣については差が大きいので、読書月間等の取組みを活用し、一層活字を読む機会を設ける。 【算数】低学年を中心に、具体物操作を通して基礎的・基本的な知識・技能の理解を深めることができた。また、前時だけでなく、下学年の系統性のある内容を適宜確認することができた。	変更なし
思考・判断・表現 B	【国語】他の教科とも関連付けながら、図や資料から読み取ったことを相手に伝えて確認し合うことを高い頻度で行うことができた。自分の思いや考えをなかなか持てない児童も多いので、途中で他者参照できる手立て等を講じ、思いや考えを持てるようにする。 【算数】中・高学年を中心に、教科書の問題文を、絵や図で置き換え表してみることで、題意や場面、数の関係の理解を深め、問題解決につなげることができた。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)